

後志社会科研究協議会

後期活動報告

根室大会参加

平成23年11月3～5日にかけて、北海道社会科教育研究大会根室中標津大会に参加。4年生部会の責任提言を行いました。

今年度は、社会科授業キャラバンと題し、小学校3～6年生と中学校歴史分野の授業を管内に公開しました。その中で4年生の「高橋牧場」を教材化し、その授業実践を提言しました。

若手を中心に、授業づくり検討会を何度も開催し、同時に提言資料作成と精力的に活動する会員にめぐまれ、とても良い提言ができたと聞いております。



冬季合宿研修会

平成24年1月5～6日に、余市町のホテル水明閣で行われました。初日は左記の北海道社会科教育研究大会根室中標津大会の提言報告や、他の授業キャラバンについての報告が行われました。また、今年度をもって退官される、吉津顧問の講演会を設定し、社会科研究協議会での思い出などを語っていただきました。

二日目は、会員による会員のための会のあり方について、たっぷり時間をとって討論をしました。社会科の授業づくりのノウハウをどのように管内に還元するのか、具体的に可能性のある方策を探りました。

見えてきた結論は、合宿研修の時間拡大です。初日を午後から開始していたものを午前から開始するようにし、午前は指導案検討。午後と二日目は会員外も含めた演習型講座か講演会。というように、会員内で行う内容と会員外への発信も含めた研修をある程度区別することで、会の活性化と管内への還元を両立できるのではないかと考えました。

また、全道大会には小・中一本ずつの責任提言を最低限の基本として、新年度の迅速な授業づくりへの対応を検討しました。担当学年の連絡を速やかに行い、総会前から授業づくりへのスタートをきるように研究部と事務局が連携して推進していこうという方向になりました。会員からは「今までやりたくてもなかなかできなかった話し合いができて良かった」という声が聞かれました。